

年 組 氏名

中国では古くから、ある十二の漢字で方位や年・月・日・時刻などを表す習慣がありました。本来それぞれの漢字に動物の意味はなかったのですが、いつのころからかその一つ一つに獣けものをあてはめるようになりました。この十二の漢字のことを十二支じゅうにしといいます。

十二支

A collection of 12 cartoon animals arranged in two rows. The top row features a chicken, a pig, a horse, a snake, a rabbit, a cow, and a mouse. The bottom row features a goat, a monkey, a sheep, a dragon, and a tiger. The animals are drawn in a simple, friendly style with large eyes and expressive faces.

いぬの時ばかり、みやこのたつみより火いできて、
いぬにいたる。

これは、鎌倉時代に書かれた『方丈記』^{ほうじょうき}という文章の一節です。

古典などを読んでみると、ときどき方位や時刻などを十二支で示した表現に出会います。方位や時刻を、十二支を用いてどのように表すか、その表し方を紹介しましょう。

方位を表すときは、八等分します。東西南北に十二支を一つずつあてはめ、残った八つの文字は二つ一組みにして使います。



二十四時間を十二等分し、それぞれに十二支をあてはめていきます。夜の十一時から一時までを子の刻、一時から三時までを丑の刻というように、一つの刻が二時間となります。（これには異説もある）

また、一つの刻をさらに四つに分けたい方もあります。「丑三つ」というのは、丑の刻を四等分したうちの三つめ、つまり二時から二時半ということになります。

冬			秋			夏			春			
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	月
師走 しわす	霜月 しもつき	神無月 かんなづき	長月 ながつき	葉月 はづき	文月 ふみづき	水無月 みなづき	皐月 きつき	卯月 うづき	弥生 やよい	如月 きさらぎ	睦月 むつき	月の異名 いみなづき
大寒 だいかん 小寒 しょうかん (1月20日ごろ)	冬至 たいとう 大雪 たいせつ (12月23日ごろ)	小雪 しょうせつ 立冬 りっとう (11月23日ごろ)	霜降 しもふり 寒露 かんろう (10月23日ごろ)	秋分 あきぶん 白露 はくろう (9月23日ごろ)	処暑 しょしょ 立秋 りっしゅう (8月23日ごろ)	大暑 たいしょ 小暑 しょうしょ (7月24日ごろ)	夏至 げし 芒种 まげしゅう (6月21日ごろ)	小满 しょうまん 立夏 りっか (5月21日ごろ)	穀雨 こくう 清明 せいめい (4月21日ごろ)	春分 ぶんぶん 啓蟄 けいち (3月21日ごろ)	雨水 すいすい 立春 りっしゅん (2月18日ごろ)	二十四節気 にじゅうしせつき

古典の中には、十二支を用いた以外の時間の表し方も使われています。

現在にも残る言葉がたくさんあるので、探してみましよう。

